



乳児院・波うさぎ訪問記

朋編集部 文・豊橋ひかり乳児院 児童指導員 白井 雅子

はじめに



朋13号において、特集Ⅱ：乳児院の現状と将来展望という題材で特集を組み、愛知県乳児院協議会の伊藤貴之会長より、「乳児院の現状と今後について」、赤ちゃんの家さくらんぼの栗原英樹施設長に施設の取り組みについて寄稿していただきました。

長期入所がこれから減少する乳児院では、高機能化、多機能化が求められています。そのような現状の中、知多地域に「波うさぎ」が2022（令和4）年度開設されましたので、今号で訪問した様子を紹介します。

施設概要

設 立：2022（令和4）年4月1日

所 在 地：知多郡東浦町大字藤江字仲之山9番地1

本体施設：鉄筋コンクリート2階建て

延べ床面積899.53㎡+52.87㎡（児童養護施設：風の色との共有部分）

定 員：12人（4人×3ユニット）

相和福祉会が運営をしています。施設がある敷地一帯に同法人が運営する福祉型障害児入所施設「トイBOX」、児童養護施設「風の色」、障害者支援施設「くすの樹」「ひがしうらの家」が設置されています。建物は2階建てで、1階部分を波うさぎ、2階部分は児童養護施設「風の色」の男児の分園ユニットが使用しています。

設立の背景

愛知県内は小牧市に竜陽園、犬山市に赤ちゃんの家さくらんぼ、岡崎市にひよこハウス、豊橋市には豊橋ひかり乳児院があります。知多地域の入所が必要な子はその4カ所にお願ひすることになりますが、距離がありますので、知多地域に乳児院の必要性を以前より感じていました。そのため、相和福祉会が設立することになりました。



「施設訪問記」

運営方針

きみを泣かせない
 したいときに したいことが できる環境を作るよ
 ひとりで できるように 手伝うね
 いつも 優しい目で 見つめていたい 見つめられたい
 胸いっぱいの 愛情を うけとってほしい

名の由来

波うさぎ紋は、謡曲竹生島にあり、縁起の良い紋様とされています。一方、海に携わる人は、海の波しぶきの様子を「ウサギが跳ねる」と表現しました。大荒れの海から、母港に帰って来た漁師さんはホッと一息つきます。同じく、幼い子どもたちが、世間の荒波に翻弄されて打ち砕かれそうになった時、せめて一時の安らぎを提供できるようにとの願いを込めて名付けました。

現 状

訪問した11月には措置8人、一時保護1人が入所していました。内訳は0歳3人、1歳5人（うち一時保護1人）、3歳1人です。一番小さい子が2カ月で、生後2週間で入所しています。開所すると知多児相からの打診が多く、ほとんどの子が知多児相管轄の子です。

もうすでに退所した子はいますが、家庭引き取りで退所する子だけで、今度初めて施設変更という形で退所する子がいます。乳児院という施設は里親へつなぐ場所、家庭へつなぐ場所であり、ひとときの場所と考え養育にあたっています。

令和4年に開所したばかりで、乳児院を経験した職員はおらず、同法人の保育園や風の色で働いていた職員が異動しゼロから作り上げています。令和4年は施設運営の土台を固める年と考えています。里親支援専門相談員も現在は配置していませんが、令和5年度から主に知多、刈谷地域で活動する予定です。

取り組み

3つのユニットが設けられています。ふわり（0歳児）4人、きらら（てくてくに移動する前の子）4人、てくてく4人を定員として小規模グループケアにて養育を行っています。

養育においてマリア・モンテッソーリ教育の考えを大切にしており、それに準じた環境をつくっています。

生活の様子

5:30	起床	その後午睡（3歳の子は除く）
6:00	朝食	午睡後、庭で遊ぶなどして過ごす
8:00	散歩	15:00 おやつ
9:00	離乳食、おやつ	18:00 夕食
	きららの子は午前睡	入浴
12:00	昼食	19:00 就寝

就寝時には体動センサーを使用しています。乳児にはビービーアラーム（ベッドの下に置くタイプ）、幼児はスノーザヒーロー（服につけるタイプ）を使用し、15分の呼吸確認だけでなく、センサーを使用することで乳幼児突然死症候群の防止に役立てています。夜勤は2人体制で実施し、



巡回時にビデオも撮影しています。

週1回車を使い、大きな公園に出掛けています。

月に1回季節に準じた行事を実施しています。例えば、10月は紅葉狩り、11月は芋掘りをしており、12月はクリスマスをする予定です。



職員について

現在総計24人

てくてく担当

ふわり・きらら担当

3つのユニットに分かれていますが、どの職員もどのユニットにも対応できるようにしており、児童担当はとっていません。

●早番 5:30～、6:00～

●日勤 7:00～、10:00～、11:00～

●遅番 12:00～、13:00～

●夜勤 21:00～7:00

※夜勤は月3～4回。夜勤を行う場合は2日もしくは3日連続で行っています

記録はスマホでその都度記録しています。スマホはその日の勤務者に1人1台渡しています。

地域とのつながりについて

令和4年度は児童3施設で東浦町商工会の方と秋祭りを実施。今後も地域との交流を積極的に続けたいと考えているそうです。

今後について

里親支援は令和5年度から行っていく予定です。ショートステイ事業は令和4年度は2つの市町と契約、令和5年度もニーズに応じてさらに2市町との契約を予定しています。

現在医療的ケアが必要な子は入所していませんが、職員の力量とニーズに応じていずれは検討していきます。



施設見学を通して

今回お話をお聞きしたのは、親子訓練室でした。親子訓練室には、キッチン、テーブル、和室があり、隣には浴室、トイレも配置されていました。親子が宿泊して交流したり、育児手技を身に付けられるように宿泊設備が整えられています。入所建物の室内は光を上手に取り入れて作られており、居室は明るく開放的な雰囲気でした。まず、幼児スペースに通していただきました。ほふく室には、モンテッソーリ教育の教えに準じ職員が作成した玩具が置かれています。ほふく室はスペースが広くとられており、子どもが見やすいように玩具が置かれ、一人ひとりの発達に合わせて用意され、手に取りやすく楽しめるようになっていました。廊下には同法人のパスピ・98施設利用者が描いた絵が飾られ、子どもたちが触れられるようになっていました。

ほふく室の隣では、子どもは自分たちのいすに座り、職員から絵本の読み聞かせを聞いて穏やかに食事を待っています。昼食の献立は、調理員が配膳し、彩り豊かな食事でした。皿は陶器を使用し、1つの皿に1つの菜を盛り付け、子どもが食べやすいように配慮されています。

乳児のユニットでは、季節を感じられるように、落ち葉の室内飾りなどをつるし、仰向けで過ごす乳児の目に入るような配慮がされていました。眠りに穏やかに入るように寝室はまぶしすぎないよう自然な光が入るようにしています。ベッドではなく、寝返りが確立した子は布団で眠っています。健康状態が一目で分かるように表が作られており、記入するようにされています。

訪問を通して

今回訪問をして、小規模のため、少人数で子どもに接することができ、穏やかな雰囲気でも子どもにとって、居心地の良いところだと感じました。令和4年度開所ということで、経験者がいないことの不安もあったかと思います。しかし、既存の施設では、マニュアルが整備されていますが、そのルールに縛られてしまうところがあります。経験者が入ってしまうとその人が以前勤務していた施設のやり方が入ってきて、独自のものが作れなくなってしまいます。また、上下の力関係が出て、意見が出にくくなる可能性もあります。他の施設のやり方に縛られず、自分たちのやり方で築いていくことができるのは、職員には負担もあるかと思いますが、一緒に作っている実感を持って、やりがいを感じるのではと思います。

また、波うさぎを訪問する前にホームページを見させていただきました。子どもの様子をこまめに更新し、また、入所にはさまざまな事情があるため、子どもの写真は、後ろ姿、横顔にとどめていますが、保護者にとっては様子をうかがえることが安心材料になりますので、寄り添うという点ではとても良いことですし、子どもの日常を見ることで見ている側もとても微笑ましく拝見させていただきました。これからの発展をお祈りします。

